

外国人の人権尊重に関する実践事例

1. 基本情報

○都道府県名及び市町村名

香川県丸亀市

○学校名

丸亀市立城乾小学校

○学校のURL

<http://www.marugame-joken-e.ed.jp/>

2. 学校紹介

○学級数

【通常の学級】1年1学級、2～6年2学級、【特別支援学級】3学級、
【合計】14学級

○児童生徒数

【全児童生徒数】269人（平成28年10月31日現在）
（内訳：1年生34人、2年生45人、3年生37人、4年生45人、5年生53人、
6年生55人）

○人権教育開発推進事業、人権教育研究推進事業実績（実施年度及び事業の別）

記載事項なし

○学校の教育目標、人権教育に関する目標など

【学校の教育目標】
「豊かな心と自ら学ぶ意欲をもつ 心身ともにたくましい児童の育成」
【人権教育に関する目標】
（基本目標）「差別」をしない・「差別」に負けない・「差別」を許さない意欲と実践力及び豊かな人間性をもった児童の育成
（重点目標）「学力保障」「人権感覚を育てる授業づくり」
「豊かな人間関係づくり」「教職員研修の充実」
「家庭・地域との連携」

○人権教育に係る取組一口メモ

多文化共生に基づく人間関係を構築するために「ワールドフェスタ」（学校行事）を開催する。

○人権教育に係る取組の全体概要

- 地域の実態や児童の発達段階を踏まえ、学校生活のあらゆる場で人権尊重の精神が生かされる教育活動の推進
- 各教科の基礎的・基本的内容を明確にし、児童の側に立った学習指導の展開を図った分かる授業の創造
- 全教職員が人権・同和教育に対する正しい知識をもち、共通理解を図るための研修の実施
- 人権・同和教育に関する評価アンケート（7・12月）を教職員・児童・保護者に実施、その結果分析と改善
- 学校・家庭・地域との連携を密にしながら、三者が一体となった人権・同和教育の推進

3. 実践事例の内容

◆ ワールドフェスタ

1 目的

ワールド学習（多文化共生を目指す総合的な学習の時間）の総まとめとして、自分たちが調べたことや思ったこと、考えたことを全校生や保護者、地域の方々に発信し広めていく場として、平成23年度から毎年11月に開催している。

2 始めたきっかけ

本校に外国にルーツがある児童（以下、外国籍等児童）が増えてきたため、平成23年度に「外国人子女」加配が配置され、取り出し指導を実施する「こくさい教室」が設置された。当時、日本国籍の児童と外国籍等児童との間で、文化や生活習慣の違いから生じる戸惑いやトラブルがあった。そこで、今後のグローバル化社会を見すえ、多文化共生に基づく人間関係づくりを進める一環として、ワールドフェスタを実施することになった。

平成28年度は、全校生269名のうち59名（約22%）が外国籍等児童である。（10月31日現在）

3 内容

(1) 日時

平成28年11月6日(日)9:20～11:30

(2) 場所

丸亀市立城乾小学校体育館

(3) 参加者

児童、保護者、地域住民

(4) 平成28年度のテーマ

「世界の文化を認め合い みんな仲良く ワールドフェスタ」

(5) 発表内容 1学年の発表時間：15分間

〔1年〕 たびに出て ～せかいのあいさつバージョン～

世界を旅して、気付いたことは、すべての国が、あいさつを大切にしていることだ。あいさつは、人々の心と心をつなぐことができる。これからもあいさつを大切に世界の子どもたちと友達になりたい。

〔2年〕 世界のお遊び、見つけた！

日本と外国の子供たちの遊びには、よく似たところがたくさんある。一緒に遊んでいるといつの間にか仲良くなれる。遊びを通して世界中の子供たちと友達になりたい。

〔3年〕 わたしたちがとどけます！世界の音楽とお話

日本と外国の民話には、3という数がキーワードになるお話がたくさんある。知恵を出し合うことや困ったときにどうすればいいのかなど、私たちに様々なことを教えてくれる民話を大切にしていきたい。

〔4年〕 乾っ子ワールドニュース ～世界の衣・食・住～

世界の国々には、長い年月の中で気候などに合わせて工夫してきた衣食住がある。衣食住は違っていても人々の願いや思いは同じで、それぞれの国の文化の違いを大切にしていきたい。

〔5年〕 やさしい町づくりのもっと先へ

私たちの身の回りには、外国人が過ごしやすいように、外国語の案内板やユニバーサルデザインの商品がある。外国人や高齢者と接する中で、進んでお手伝いをさせていただき、誰にもやさしい町にしたい。

〔6年〕 世界平和に向けて

今年リオデジャネイロで開催されたオリンピックの旗の五輪は、5大陸を表しており、それが重なり合って、平和への願いが込められている。4年後の東京オリンピックでは平和を一層進める大会にしたい。

〔こくさい〕 みんなでおどろう マンボNo.5

ペルー、フィリピン、コロンビア、ブラジル、中国、韓国にルーツのある児童が、それぞれの国の言語で誘い合ってマンボをおどる劇を通して、それぞれの国の言語や文化を大切にする思いをもちたい。

〔全校合唱〕 幸せなら手をたたこう

毎年、「幸せなら手をたたこう」を7か国語で合唱している。児童は6年間で7か国語の「幸せなら手をたたこう」が歌えるようになる。学年リレーで合唱することは、一体感とともに他の言語の理解にもつながっている。

全校生・・・日本語
1年生・・・タガログ語
2年生・・・韓国語
3年生・・・ポルトガル語
4年生・・・中国語
5年生・・・英語
6年生・・・スペイン語

4 取組の主体や実施体制

ワールドフェスタは、学校行事として学校が主体的に取り組んでいる。テーマの設定や進行については児童会役員が行っている。

5 取組を実現するに当たって課題となったこと、及びそれに対して講じた工夫

人権課題のうち、外国人に関する課題を大きく取り上げ、学習していくことについて、当初、他の人権課題とのバランスが問題となった。

このことについては、それぞれの学校には、児童や地域の状況によって重点的に取り組む人権課題があると考えられる。本校では、外国籍等児童が多いことから外国人に関する課題について重点的に取り組み、一つの人権課題を深く学習することで他の人権課題への理解も深まると考え、共通理解を図った。

4. 実施する際に生じた課題及びその解決策

- 1 課題及び課題が生じた背景
平成23年度当初、外国籍等児童の保護者の私語が問題になった。その背景として日本語が分からず、発表内容が理解できないことが考えられた。
- 2 課題に対する対応
調べ学習の中で分からないことを外国籍等児童の保護者に尋ねて解決した内容を発表したり、発表内容を視覚的にも分かるようにしたりするなど、外国籍等児童の保護者にもより理解が深まるように工夫した。

5. 実践事例の実績、実施による効果

- 1 取組の実績
ワールドフェスタは、平成23年度から、毎年11月上旬の日曜日に開催している。今年度は6回目である。授業参観として保護者に案内し、また登下校時にお世話になっている防犯パトロール隊の方々、学校評議員の方々にも参観していただいている。平成28年度の保護者等の参加者は約200名だった。
- 2 取組が効果を上げた実際の事例
参加された学校評議員の一人からは、「このワールドフェスタの取組は、城乾小学校の宝である。今後も大切な行事として継続してほしい」と感想を言われた。
PTA会長や自治会会長は、様々な会合の挨拶の中で、「城乾小学校や城乾小学校区では多文化共生を大切にしていきたい」と話すことがあり、その背景にはワールドフェスタをはじめとした多文化共生への取組があると考えられる。
- 3 取組の実施から得られた知見・経験により改善を図った事項
外国籍等児童の保護者は、学校の様々な行事に参画したいと考えているが、日本語の理解が難しく協力できていない。そこで平成28年度は、PTAの役員に外国籍等児童の保護者ができる用務を確保するように依頼するとともに、外国籍等児童の保護者にも、挨拶当番や運動会の準備等をこまめに案内するようにした。そうすることでPTA活動に外国籍等児童の保護者の参加者が大きく増えた。

6. 実践事例についての評価

- 1 取組についての評価、及びそう評価する理由
ほぼすべての児童の感想が肯定的であったことから、ワールドフェスタ等の取組は、多文化共生に基づいた人間関係づくりに大きく寄与していると考えている。
- 2 保護者や地域住民からの反応
事後のアンケートによると、保護者の98%が「発表内容が分かった」、83%が「多文化共生について子供と話している」と回答している。ワールドフェスタ等を通して、保護者や地域住民に多文化共生の取組が浸透しつつある。
- 3 現在、実施に当たって課題と感じていること
今後は、外国人に対する差別的な内容も取り上げ、児童に考えさせたい。